

なんでやねん

暗黒の木曜日

1929年10月24日木曜日、ニューヨーク・ウォール街の株式市場で株価の大暴落が始まった。主力株・花形株の9月3日の最高値と11月3日の最安値を比較すると、アメリカ仕詰が約181ドルから86ドルへ、ゼネラル・モーターズ（自動車）が約72ドルから36ドルへ、ゼネラル・エレクトロニックが約396ドルから168ドルへ、USスチールが約261ドルから150ドルへという大暴落である。暗黒の木曜日から「わずかに2、3週間に300億ドルが空中に吹き飛ばされてしまったのだ。この金額は、アメリカが第一次世界大戦に消費した金額に相当する。」（F・L・アレン『オンリー・イエスタディ』）。

生産過剰と世界恐慌

アメリカでは、1933年に1000万ha(全面積の約4分の1)の綿花が土の中に鋤きおされた。ブラジルでは年々1千万袋のコーヒー(世界年間需要とほぼ同じ)が焼却されたり、海中に投棄されたり、街路工事に使用されたりしている。ロンドンでは船いっぱいのオレンジが海中に投棄された。1933年秋には、500万頭の豚がアメリカ政府によって買い上げられ屠殺された。アルゼンチンでは数十万の老いた羊が、単に若い羊に席を譲るために屠殺された。こうした例はまだこのほかにもいくらかもある。しかし、これらすべてが数百万人の失業者とその家族がボロをまとっているときに行われているのである。(バルガ『大恐慌とその政治的効果』)

紹介している写真は、当時のアメリカの失業者とその家族たちの様子を記録した写真である。掘っ立て柱の家の向こうにある高層ビルと比較して見てみよう。

日常生活の様子



出典 ecdrow.com



出典 ecdrow.com



出典 ecdrow.com



出典 ecdrow.com

ニューディール政策

アメリカ合衆国の第32代大統領のフランクリン・ルーズベルトは、新しいメディアであるラジオを使って次のような演説を行った。

「第一に取り組むべき課題は、人々を仕事につかせることである。農産物価格を高め、購買力を増大させ、経費削減に乗り出すべきだという主張も役に立つ。我々は行動を必要としており、しかも速やかに着手しなければならないのである。」(1933年の「演説」の要約)

それは、おもに次の4つの政策を行うことであった。

- ① 景気回復策：輸出、軍需産業を拡大する。
- ② 失業者対策：公共事業で仕事を増やす。
- ③ 農業対策：政府が農産物を買値上げる。
- ④ 労働者対策：労働条件を改善する。



TVA(テネシー川流域開発公社)で、多目的ダムの建設で多くの労働者を雇い入れる